

群馬県みなかみ町藤原

首都圏の水源地の村と一緒に守る人材募集！

受入団体	みなかみ町藤原むらおこし協議会	
新・田舎で働き隊！ の活動内容	<p>首都圏の水がめである利根川源流の里、藤原と一緒にむらおこしをしてください。390km²にわずか450人、小中学生合わせて24人という小さな集落です。地域の課題と一緒に考え、乗り越え、地域コミュニティーをなんとか維持させていく挑戦です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の意識調査、一体この集落をどうしたいのか？何が魅力か？一緒に考えます。 ・閉鎖されている農産物直売所を地域の情報発信、交流拠点として整備する。 ・地域外の若者から見て魅力的な地域資源の発掘。 ・田舎暮らしの体験プログラムの開発。 ・利根川流域の人々と連携し、地域活性を試みる。 ・可能性のあることにはどんどんチャレンジする。 	
本交付金で実施する事業内容 ※地域が実施する事業の全体像	分類	⑫地域提案型活動
	事業タイトル	首都圏の水源地から「飲水思源」の利根川流域コモンズを発信する。
<p>首都圏3000万人の生活用水の源である利根川の水源地から、「飲水思源」(いんすいしげん) ～水を飲むときにその源に思いをはせる～を合言葉に、水源地を利根川の水の恩恵にあずかるすべての人々の公益的財産とらえ、上下流の市民・企業・行政・学校・研究機関が参画・協働して、源流域の持つ公益的財産を未来永劫に保全し、それがもたらす生態系サービスを子々孫々にわたり持続的に享受するために、流域コモンズを形成し、流域住民が集まって支え守る開放的、参画型・流域単位の現代版入会システムを構築する。</p> <p>この現代版入会システムを構築することが、藤原地区の農村の活性化及び交流の手段として有効と考えて、3年にわたり実践をしていく。</p> <p>1年目は、藤原地区住民の意識調査、合意形成、都市(流域)からの公募委員の参加画。地域資源の調査。閉鎖されている直売所を交流拠点として整備する。</p> <p>2年目は、商品開発、販売、体験プログラムの開発、利根川の上下流交流の活性化。移住希望者の受入開始。</p> <p>3年目は、「流域コモンズ」としての利根川流域地域への情報発信を強化し、積極的な受入を行う。</p>		

地域の特徴

★地区の概要

①藤原地区は、利根川の源流域にある集落で、首都圏の水がめとして、4つの大規模ダムを抱えている。藤原地区の面積は、みなかみ町の約半分を占め、390 km²という広大な土地にみなかみ町の人口 21,000 人のわずか 2%にあたる 450 人の住民が住んでいるにすぎない。関東でも有数の豪雪地帯で、冬には 2m 以上の雪に覆われる。そのため、冬場には車をもたない高齢者にとって、買い物にも不自由な過酷な土地である。まさに他の地区からは隔絶された陸の孤島のような地域である。平均気温は、北海道と同じです。クーラーは、必要ありません。



②人口の減少も激しく、平成 2 年には 752 人いた人口も平成 24 年には 450 人に減っている。高齢化率も 42% に達する。藤原小中学校の在籍数も平成 25 年度で小学生 17 名、中学生 7 名となっているが、保育園では、平成 25 年度は 3 名で、5 歳が 2 名、2 歳が 1 名で、現状では来年小学校に 2 名が進学すると 3 年間は、新入生が不在になってしまう。



藤原の運動会は、保育園生から中学生、老人会、消防団、婦人会すべての住民でおこないます。

③ 農林業従事者も減少しており、平成 12 年には 68 人であった農業人口は、平成 17 年には 62 人に減少している。耕作放棄地の面積も 498a から 558a 増加した。サル、クマ、イノシシなど鳥獣被害も増加している。

④ 地区内には、スキー場が 3 か所あり、300 名以上宿泊できるホテルが 2 か所、100 名以上宿泊できる旅館が 2 か所、その他にも旅館、ペンション、民宿など 30 軒の宿泊施設がある。しかし、平成 12 年には、60 軒以上の宿泊施設があったが、スキー客の減少とともに衰退してしまった。平成 4 年には 50 万人いたスキー場来場者も、平成 24 年には 25 万人に半減している。



★これまでの取り組み

①平成 15 年より、首都圏の都市住民と藤原の地域住民、町役場が連携し、40 年間放置されていたかつての入会地を再生させ、毎年春に火入れを行い、秋には茅刈りを行っている。そのフィールドを学校団体の環境学習の場として活用し、講師として地元の古老が活躍している。また、秋に刈り取った茅は関東一円の文化財の屋根材として利用されている。



②平成 15 年より、首都圏の水がめである利根川の最上流部にある藤原の地域住民が中心となり、下流域の人々とともに、「奥利根水源憲章」を定め水源地の保全と地域活性化を流域住民とともに進める取り組みを続けている。(流域 commons の提唱)



③平成 21 年度から「みなかみ町教育旅行協議会」による、小中学生体験学習の受入を行い、教育旅行の取組を開始した。その受入を行うことにより、藤原地区のまとまりが深まりつつある。



④古民家再生プロジェクト！数百年の歴史のある古民家再生し、田舎暮らしの体験場所として活用できるように手作りで整備を進めています。



★その他イベント等



今年で56回目となる藤原湖マラソン大会



幻想的な桜祭りでのキャンドルナイト



600年以上の伝統のある諏訪神社の獅子舞



かまくら祭りとキャンドルナイト

■募集概要

活動・研修の内容	<ul style="list-style-type: none">・地域住民の求めているものやこの地域をどうしたいのか、などのヒアリング調査。・休耕地、農産物の生産状況の調査。・域外の若者から見て魅力的な地域資源の発掘。・田舎暮らしの体験プログラムの開発。・地域の人と一緒にイベントの運営。・ブログ、Twitter、Facebook 等による地域情報の発信。
募集対象	<ul style="list-style-type: none">・お年寄りとのコミュニケーションが好きな方。・地域住民と協力しながら一緒に活動できる方・普通自動車運転免許を有している方
募集人数	1名
主な活動場所 (研修地)	みなかみ町藤原地区にある直売所
研修時間	8時30分 ~ 17時30分(8時間勤務)※1時間の休憩あり
研修期間	平成25年10月1日 ~ 平成26年3月31日(6ヶ月) ※活動状況により採用日から起算し3年を限度に延長することも可能
研修手当	月額160,000円(日額8,000円×20日)社会保険あり
その他特記事項	住居は、有料ですが、町営住宅、1軒屋、下宿等も可能です。
申込受付期間	平成25年8月20日 ~ 平成25年9月20日
選考の流れ	まずは広域募集 WEB サイトの「応募フォーム」よりプロフィールや希望する活動内容の登録を行ってください。希望地域の選択を行う際、当地域にチェックをお願いいたします。登録内容を拝見し、当地域より連絡させていただく場合がありますので、ご了承ください。 現地下見希望の方は、平成25年9月20日(金)までに、お願いいたします。事前に下記へメールでご連絡の上、お越しくください。研修先となる地区を案内します。下見のための交通費等は支給しません。

■お問い合わせ先

みなかみ町藤原むらおこし協議会 担当：北山

〒379-1721 群馬県利根郡みなかみ町藤原 3862-1

TEL: 0278-75-2404 FAX: 0278-75-2404 メール i.kitayama@enjoy-minakami.jp